

press release

過去へのまなざし、
人々のいとなみ
第3期
A Look Into the Past,
The Life of People
所蔵作品展

COLLECTION EXHIBITION

過去へのまなざし、

A Look Into the Past,
The Life of People



黒田清隆
《黒田清隆の白土》
昭和30年代後半



黒田清隆 《白土》 昭和30年代後半



黒田清二 《白土》 昭和30年代後半



アサキタマシロ 《アサキタマシロの風景》 1973-1984年

人々のいとなみ

2025 2026
10 | 10 (金) ▶ 1 | 18 (日)

【開館時間】9:00～17:00 ※金曜日は19:00まで開館 ※入場は開館の30分前まで
【休館日】12月1日(月)、8日(月)、12月25日～1月1日(年末年始)
【入館料】一般510(410)円／大学生310(250)円 ※()内は20名以上の団体
【館景園共通券】一般660円／大学生350円 ※特別展は別料金
◎高校生以下無料 ◎当館で開催中の特別展入館券にて無料でご覧いただけます。
◎障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料(1階総合受付でお申し出ください)。

フリータークデー

自由な時間を過ごし、
展覧会を楽しもう！
10 | 19 (日)
11 | 16 (日)
12 | 21 (日)
1 | 18 (日)

所蔵作品展

第3期

<https://www.hpam.jp/>

広島県立美術館 2階展示室
Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上本町2-22
tel.082-223-6346 fax.082-223-6644

【概要】

所蔵作品展第3期

「過去へのまなざし、人々のいとなみ」

1968（昭和43）年に開館した広島県立美術館は、1996（平成8）年に現在の建物に生まれ変わり、所蔵作品展と特別展という両輪によって美術の魅力を発信しています。

当館は開館以来、多くの方々のご協力を得てコレクションを充実させてまいりました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数5,400点を超えています。

さて、今期の所蔵作品展は、本県ゆかりの巨匠たちを一望できる「ウェルカムギャラリー」と、第3期「過去へのまなざし、人々のいとなみ」の2本立てといたしました。会期中の特別展「ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト」と「木村伊兵衛 写真に生きる」にも心を寄せてご鑑賞ください。

今期も皆さまに感想をお書きいただき交流できるコーナーやリレートーク、ワークショップ、インスタグラムのライブ配信といった関連イベントも開催しつつ、さまざまな角度から当館コレクションの魅力を発信します。また、今年度はフリートークデーを毎月第3日曜日に実施いたします。

ご来館のたびに新しい美の魅力を発見し、心と癒やされる展示をめざし、努力を重ねてまいります。今後の当館の活動にもご期待ください。

第1室 過去へのまなざし、人々のいとなみ～西洋美術

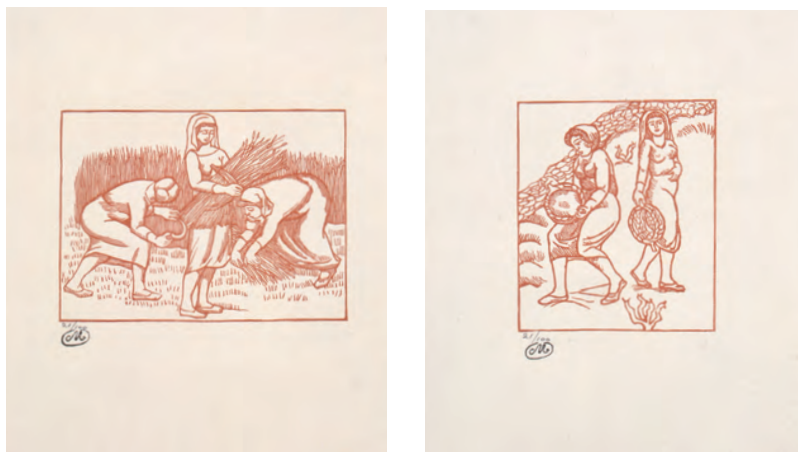
この展示室では、3階で開催される「ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト」（9/20～11/30）および「木村伊兵衛 写真に生きる」（12/13～2/8）にちなみ、1920～30年代頃に制作された、人々のいとなみを表現した西洋美術作品に注目します。

作家たちは、さまざまな暮らしの場面を独自の視点で捉えてきました。アリスティード・マイヨールは古代ローマの『農耕詩』によせてのどかな日常を描き、マックス・ベックマンはサーカスや見世物小屋の賑々しい様子を通じて、社会を風刺しています。

また、木村伊兵衛と同時代に活躍した写真家、マン・レイが撮影した作家たちの写真もご紹介します。個性豊かな作家たちに向けられた、彼の視線が感じられることでしょう。

そして、人物を幾何学的形態で表現した作品をご覧ください。ジュリオ・ゴンザレスやバーバラ・ヘップワースの彫刻は、一見すると人物には見えづらいものの、西洋美術の伝統的な人物主題を抽象化しています。エル・リシツキーは、シンプルな色かたちを組み合わせ、いきいきとした表情や身ぶりのキャラクターを創造しました。

素材や技法、具象と抽象のように、さまざまに異なる多彩な人物表現をお楽しみください。



アリスティード・マイヨール《ウェルギリウスの農耕歌》1937-1944 年

第2室 過去へのまなざし、人々のいとなみ～日本洋画

この展示室では 2026（令和 8）年に生誕 130 年、没後 50 年の節目を迎える広島出身の洋画家・名井萬亀（1896（明治 29）年 - 1976（昭和 51）年）の作品の中から身近な話題に注目した作品を選び、あわせて、人々のいとなみを活写した作家の作品を展示します。

名井萬亀は、絵は独学ながら 8 年にわたるフランス留学の後、1936（昭和 11）年日本美術協会列品館（東京：現・上野の森美術館）を貸し切りにして開催した個展が評価され、一躍日本を代表する前衛作家のひとりと目されるようになりました。しかし、第二次世界大戦で作品発表の機会がなくなり、高い評価を得た戦前作品もほとんどを原爆で失いました。戦後は団体展から距離を置いたこともあり、その名前は人々の記憶から薄れつつありましたが、近年、その独創的な表現が再評価されつつあります。

また、名井以外の作家では、国鉄の機関士として働きながら仕事場周辺を描いた^{ひやまたけ お}檜山武夫や、^{おお たちゅう}檜山を慕って機関助士になり沿線風景を描いた太田忠、家族への優しいまなざしを感じさせる^{みなみ}南^{くんぞう}薫造、少し前まで普通に目にした農村の記憶を描きとめた^{くぼ たつお}久保田辰男など、戦前・戦後を生きた人々の何気ない日常を描いた作品も併せてご紹介します。

この機会にそれぞれの作家が描きとめた同時代、現代からはちょっと不思議で懐かしい世界をご堪能ください。



名井萬亀《いわしあみ(一)》1960年



名井萬亀《かいだん》1968年

第3室 過去へのまなざし、人々のいとなみ～日本画

この展示室では「作家のまなざし」「人々の生活風景」「和高節二の人物画」の3つの視点で、日本画作品を紹介します。

まず、「作家のまなざし」として、本県出身の^{おく だげんそう}奥田元宋《^{けいかんしゅんよう}溪間春耀・^{けいかんしゅうよう}溪間秋耀》にご注目ください。^{こだま きぼう}元宋は同郷の^{こだま きぼう}児玉希望に師事した作家ですが、18世紀の^{まるやまおうきよ}円山応挙にもならってこの作品を完成させました。16世紀の^{は せ かわとうはく}長谷川等伯を意識した希望の^{しょうりん}《松林》などと共に、過去の名作、名家に対する、作家のまなざしを実感していただけるでしょう。

次に「人々の生活風景」として、江戸時代の^{わだかせつじ}厳島図、昭和期の作家による人物画を紹介します。人々へのまなざし、過去へのまなざしが交錯した^{わだかせつじ}厳島図の群衆表現は、ぜひ目を凝らしてご鑑賞ください。

最後に「和高節二の人物画」として、没後35年を迎えた本県安芸高田市出身の画家に焦点をあてます。和高は農業のかたわら^{わだかせつじ}励んだ画業によって高い評価を得て、多くの愛好家を獲得しました。身近な人々の表情を捉えた素描と共に、その人物表現をご覧ください。

この機会に、江戸時代から現代まで、幅広い時代にわたる当館所蔵の日本画作品をお楽しみください。



和髙節二《村の子供》1933 年

第4室 過去へのまなざし、人々のいとなみ～工芸

「民芸」とは、今からちょうど 100 年前に、思想家の柳宗悦^{やなぎむねよし}、陶工の河井寛次郎^{かわい かん じろう}、浜田庄司^{はま だしょうじ}の 3 人によって創られた言葉です。それまで見過ごされてきた、民衆が生んだ日常の生活道具の中に手仕事の美しさを発見し、「民衆的工芸」を略称して「民芸」と名付けました。

彼らは全国を精力的に旅しながら各地の民芸を発掘・蒐集し、その中で見出した形や技法など、そのエッセンスを自らの創作にも取り込んでいきました。また、器物だけでなく、その土地の生活や文化にも次第に関心を広げ、写真と文章で記録しました。

このたびの展示では、河井や濱田、芹沢銈介^{せりざわけいすけ}、黒田辰秋^{くろ だ たちあき}といった民芸運動を推進した作家たちの作品の中から、各産地特有の形や素材、技法を取り入れた作品や、産地の情景や職人をモチーフにした作品など、その土地の暮らしが見えてくるような作品を紹介します。あわせて、民芸運動の機関紙である雑誌『工藝』も展示し、彼らの作品と記録を通して、各地に生きた人々のいとなみを見つめます。



浜田庄司《黒釉鑄流描大鉢》昭和 30 年代後半

【ウェルカムギャラリー】

当館では、リニューアルオープン 25 周年を機に、令和 3 年秋に新たな展示コーナーとしてウェルカムギャラリーを設けました。皆さまへの歓迎の気持ちと、「多くの方々の美術への誘いとなるように」との願いを込め、この場所を「ウェルカムギャラリー」と命名しました。当館の顔ともいべき大理石に囲まれた展示室で、分かりやすい作品解説をご用意しています。また、当館の成り立ちをご紹介する動画を展示室の入口で上映しています。

本展では、「これが、県美の広島愛」をテーマに、広島県ゆかりの著名作家である、洋画家のこばやしせんこ みなみくんぞう あいみつ小林千古・南薫造・顰光、日本画家のこだま きぼう おくだ げんそう ひらやま いくお児玉希望・奥田元宋・平山郁夫、彫刻家のひらくしてんちゅう えんつば かつぞう平櫛田中・圓鍔勝三、ろっかく しすい しみず なんざん いまい まさゆき工芸作家の六角紫水・清水南山・今井政之の作品を一堂に展示します。作家を育んだ広島という地域の特性や、作家の広島への想いを伝えるエピソードと合わせて、当館が誇る名品の数々をご覧ください。

また、1 階図書室では美術をテーマにしたマンガコーナーを設けるなど、多くの方々に美術に親しんでいただく場をご用意しています。

美術が好きな方も、これから好きになる方も、どうぞお気軽にお楽しみください。



【関連イベント】

■リレートーク

日時：2025年10月17日（金）15:00～（各室10分程度）

講師：池田 彩夏（当館学芸員）、角田 新（当館学芸員）、
隅川 明宏（当館主任学芸員）、岡地 智子（当館主任学芸員）

■インスタライブ配信

①1室：2025年10月21日（火）17:00～

講師：池田 彩夏（当館学芸員）

②4室：2025年10月28日（火）17:00～

講師：岡地 智子（当館主任学芸員） ※奥田元宋・小由女美術館とのコラボ配信

③2室：2025年11月11日（火）17:00～

講師：角田 新（当館学芸員）

④3室：2025年12月2日（火）17:00～

講師：隅川 明宏（当館主任学芸員）

公式インスタグラムはこちら



■ワークショップ「エジプトの組織りに挑戦！」

日時：2025年11月16日（日）9:00-12:00、13:00-16:00

講師：福田 浩子（当館学芸課長）、岡地 智子（当館主任学芸員）

内容：古代エジプトでも使われていたカード織りの技法で、エジプシャン・ダイアゴナル文様の紐を織り、ストラップ（余裕があればタッセルも）を作ります。参加者はベルト（ズボンに通して使うもの、お手持ちのベルト）をお持ちください。

所要時間の目安：3時間

定員：午前・午後 各6名

対象：大人（小学生は保護者同伴）

申込方法：電話で申込み（先着順）、空きがあれば当日参加も可

10月10日9時から電話受付開始（082-221-6246）

場所：2階所蔵作品展4室付近

※参加費・材料費無料 ※要所蔵作品展入場料



press release



■フリートークデー

2025年10月19日（日）、11月16日（日）、12月21日（日）、1月18日（日）

9:00～17:00

子供も大人も自由に感想を話しながら気兼ねなく展覧会を楽しんでいただけるよう、フリートークデーを実施。当日は下記イベントも併せて行います。

●作品を探しに行こう！

当館所蔵品の一部がプリントされた缶バッジを配布します。どの作品か、展示室に作品を探しに行こう。

先着：30名

※事前申込不要 ※要入館券



【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館へお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館へ提出していただき、
1 週間程度お時間を頂きます。ご了承ください。

※展示室内での筆記具の使用は鉛筆のみでお願いします。（ボールペンなど使用不可）

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町 2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 神内有理

総務課 広報担当 一色 直香

公式 SNS はこちらから

